

最近の管内経済概況

(2023年7月の経済指標を中心として)

～ 緩やかに持ち直している ～

最近の動きをみると、

○生産活動は、弱い動きとなっている。

○個人消費は、緩やかに改善している。

○観光は、改善している。

○公共工事は、減少した。

○住宅建設は、弱い動きとなっている。

○民間設備投資は、増加している。

○雇用動向は、弱含んでいる。

○企業倒産は、件数、負債総額とも増加した。

全体として、管内経済は、緩やかに持ち直している。

なお、先行きについては、国際経済の動向等を十分注視する必要がある。

※ 下線部は、前月から判断を変更した部分。

2023年9月19日

照会先 : 経済産業省 北海道経済産業局
総務企画部 企画調査課

T E L : 011-709-2311 内線 2525

E-mail : bz1-hokkaido-kikakuchosa@meti.go.jp

U R L : <https://www.hkd.meti.go.jp>

管内経済概況判断の推移

(2023年9月現在)

発 表 月	2023年4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月との 判断比較
総 括 判 断	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	<u>緩やかに持ち直している</u> (↗)	
生 産 活 動	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	弱い動きとなっている	
個 人 消 費	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	持ち直している	<u>緩やかに改善している</u> (↗)	
観 光	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	緩やかに改善している	<u>改善している</u> (↗)	改善している	
公 共 工 事	減少した	減少した	<u>増加した</u> (↗)	増加した	増加した	<u>減少した</u> (↘)	
住 宅 建 設	<u>弱まっている</u> (↘)	弱まっている	弱まっている	弱まっている	弱まっている	<u>弱い動きとなっている</u> (↘)	
民 間 設 備 投 資	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	増加している	
雇 用 動 向	緩やかに持ち直しの動きが みられる	緩やかに持ち直しの動きが みられる	<u>弱含んでいる</u> (↘)	弱含んでいる	弱含んでいる	弱含んでいる	
企 業 倒 産	件数は増加、負債総額は減少した	件数は増加、負債総額は減少した	件数は増加、負債総額は減少した	件数、負債総額とも減少した	件数は増加、負債総額は減少した	件数、負債総額とも増加した	

注：下線部は、前月から判断を変更した部分。

 上方修正  据え置き  下方修正

生産活動 ～ 弱い動きとなっている ～

7月の鉱工業生産は、前月比▲0.2%と2か月ぶりに低下した。前年同月比は▲4.0%と15か月連続で低下した。低下業種は、化学・石油石炭製品工業など9業種となった。上昇業種は、鉄鋼業など6業種となった。

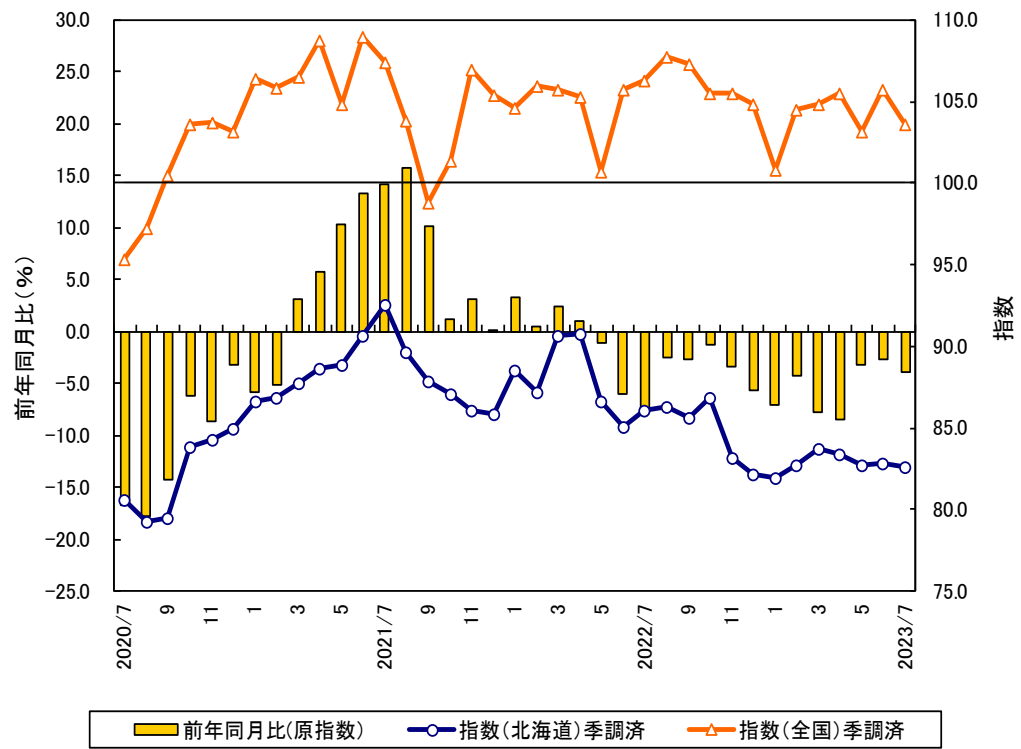
< 7月 >

季節調整済指数

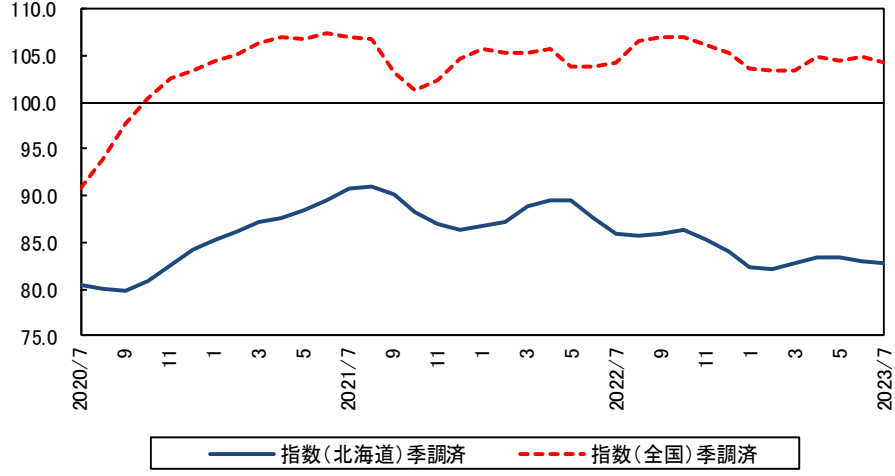
北海道（速報）	82.6（前月比▲0.2%）
全 国（速報）	103.6（前月比▲2.0%）

	業 種	前月比 (%)	前年同 月比(%)	主な品目
低下 9業種	化学・石油石炭製品工業	▲ 10.7	+ 0.9	化学・石油石炭製品
	輸送機械工業	▲ 8.2	▲ 7.2	自動車部品
	食料品工業	▲ 2.2	▲ 1.8	塩蔵品
上昇 6業種	鉄鋼業	+ 23.2	+ 4.4	鋼半製品

鉱工業生産指数（2015年=100.0）※全国は2020年基準



鉱工業生産指数の推移(3か月後方移動平均)



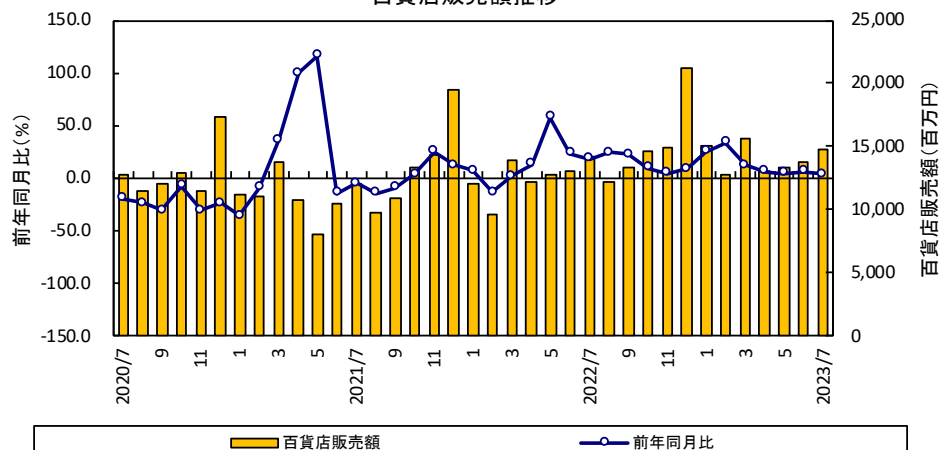
(資料：経済産業省、北海道経済産業局)

個人消費 ～ 緩やかに改善している ～

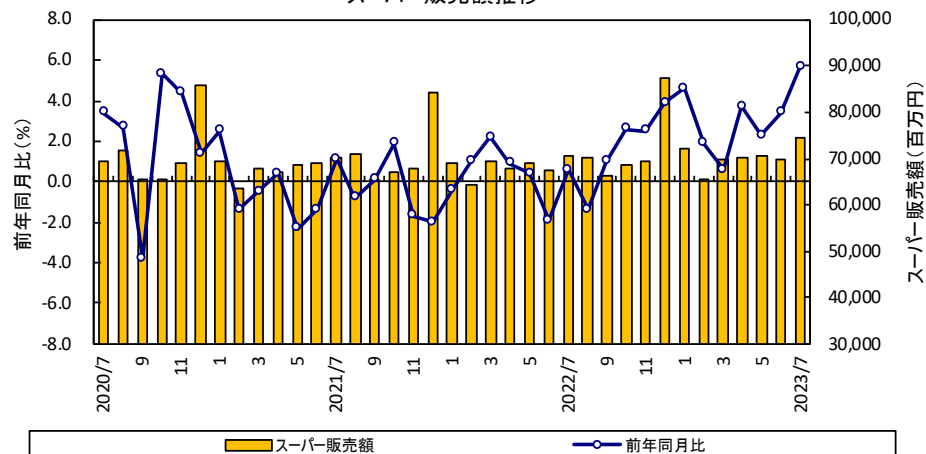
7月の個人消費は、新車販売が前年を下回ったものの、他の6業態は前年を上回った。

- ・百貨店は、身の回り品と飲食料品の売上げが好調で、前年同月比+3.9%と17か月連続で前年を上回った。
- ・スーパーは、飲食料品の売上げが好調で、同+5.7%と11か月連続で前年を上回った。
- ・コンビニエンスストアは、同+9.3%と21か月連続で前年を上回った。

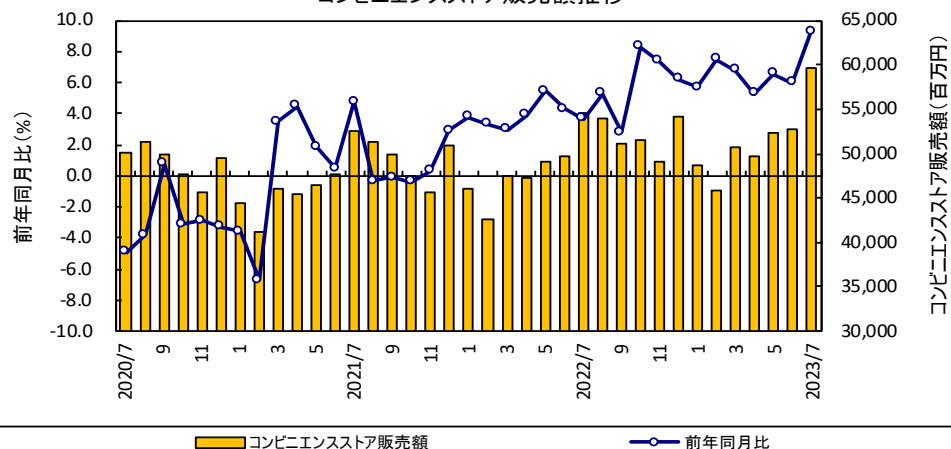
百貨店販売額推移



スーパー販売額推移



コンビニエンスストア販売額推移

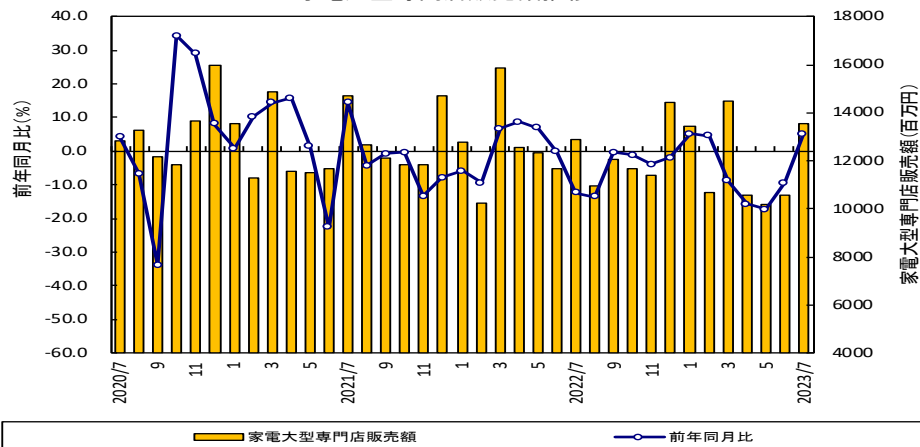


【ヒアリング内容】

- ・宝飾品やハンドバッグなど高級ブランドの商品が国内富裕層向けに引き続き好調なほか、インバウンドも伸長した。また客数が増加し、晴れた日が多く気温が高めに推移したことから、日傘や帽子など夏物商品の売上げが好調だった。(百貨店)
- ・値上げの影響で全体的に売上げが増加した。気温の高い日が続いたことから、飲料やアイス、スイカやメロンなどの季節の果物のほか、惣菜では揚げ物の売上げが好調だった。一方で、節約志向からか、特売時の売上げが引き続き良かった。(スーパー)
- ・気温の高い日が続き、飲料やアイスのほか、冷たい調理麺の売上げが引き続き好調だった。人流増加が続いており、弁当やおにぎりの売上げが好調で、イベント会場周辺の店舗の売上げが良かった。(コンビニエンスストア)

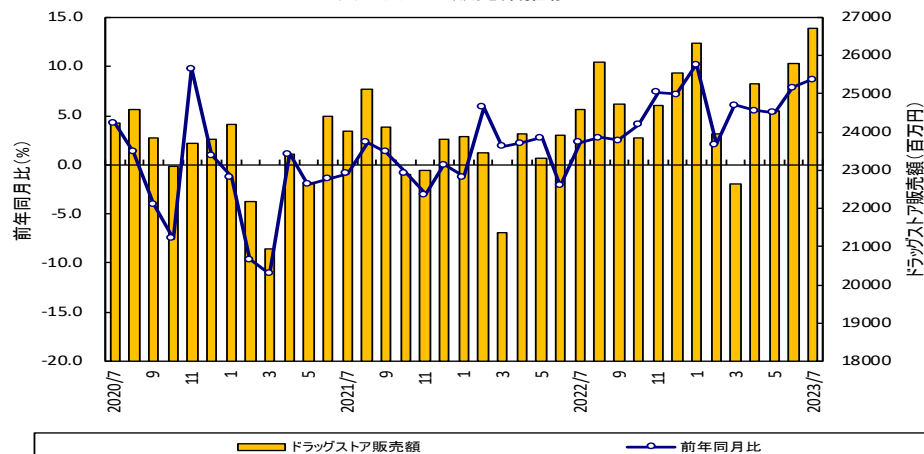
- ・家電大型専門店は、同+5.2%と5か月ぶりに前年を上回った。ドラッグストアは、同+8.7%と13か月連続で前年を上回った。ホームセンターは、同+0.8%と4か月ぶりに前年を上回った。
- ・新車販売は、同▲2.9%と11か月ぶりに前年を下回った。

家電大型専門店販売額推移



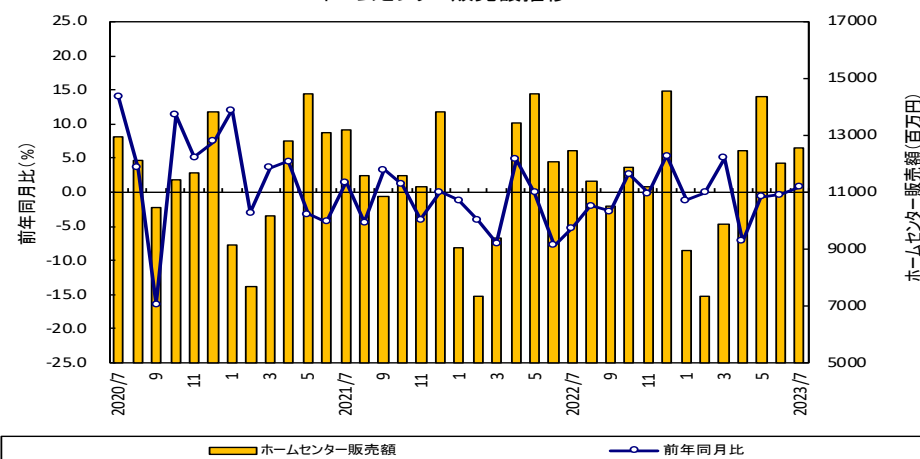
(資料：北海道経済産業局)

ドラッグストア販売額推移



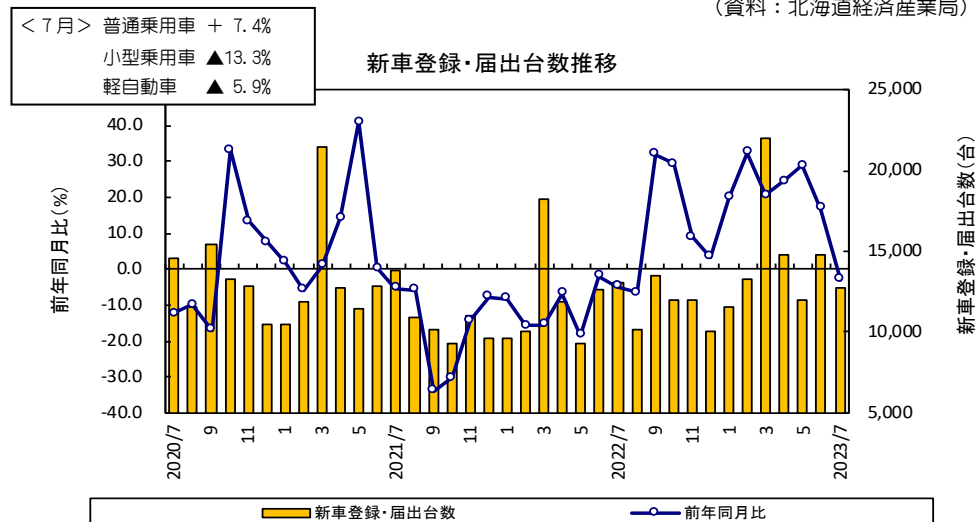
(資料：北海道経済産業局)

ホームセンター販売額推移



(資料：北海道経済産業局)

新車登録・届出台数推移



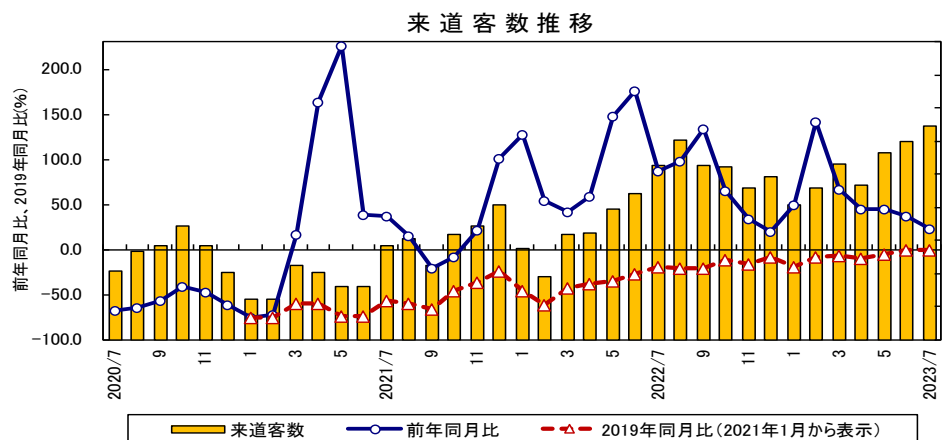
(資料：(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

【ヒアリング内容】

- ・気温の高い日が続いたことから、エアコンや扇風機など夏物家電の売上げが好調だった。一般的なエアコンに比べて設置が容易な窓用エアコンやスポットクーラーなどの売上げも良かった。（家電大型専門店）
- ・気温の高い日が続いたことから、UVケアや制汗剤など季節性商品のほか、飲料の売上げが良かった。また、インバウンドの売上げはコロナ禍前の水準近くまで回復した。（ドラッグストア）
- ・値上げの影響のほか、気温の高い日が続いたことから、扇風機や飲料の売上げが好調だった。（ホームセンター）

観光 ～ 改善している ～

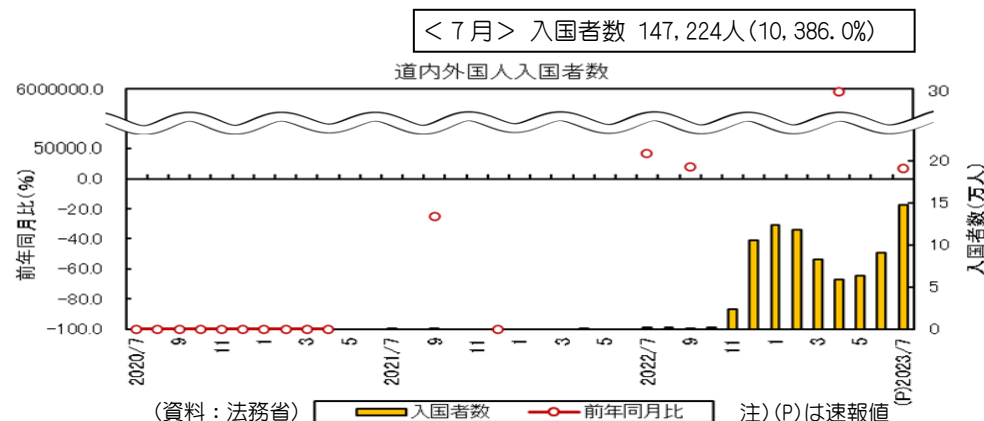
7月の来道客数は、前年同月比+22.7%（2019年同月比▲0.4%）と21か月連続で前年を上回った。また、道内外外国人入国者数は、147,224人（前年同月差+145,820人）であった。



< 7月 > 来道客数 1,293,600人（+22.7%）

※北海道外から航空機（国内線）、JR（北海道新幹線）、フェリーを利用して来道した旅客数。
※道内で入国手続きを行った外国人数は含まない。

（資料：（公社）北海道観光振興機構）

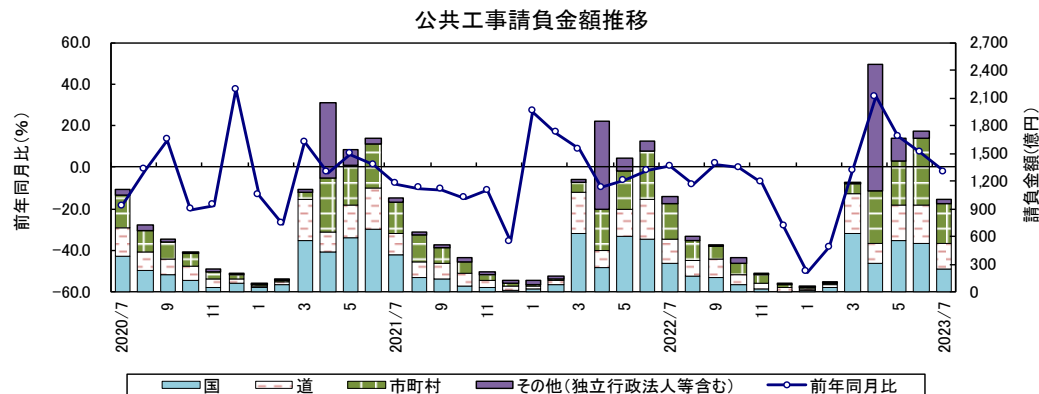


【ヒアリング内容】

- ・7月は、前月に続き温泉街は人出でにぎわい、飲食店やお土産物屋の売上げも良かったと聞いている。また、外国人観光客の宿泊数は好調で、特に韓国からの観光客が多く、大規模宿泊施設を中心に宿泊実績が前年を上回る場所もあった。8月の夏休みシーズンは、道内外から幅広い年齢層の観光客がみられ、中でも親子連れの観光客が多くなったと感じた。（観光協会）

公共工事 ～ 減少した ～

7月の公共工事請負金額は、道、市町村は前年を上回ったが、国は前年を下回り、前年同月比▲2.4%と4か月ぶりに前年を下回った。



< 7月 >

北海道 ▲2.4%

（内訳）

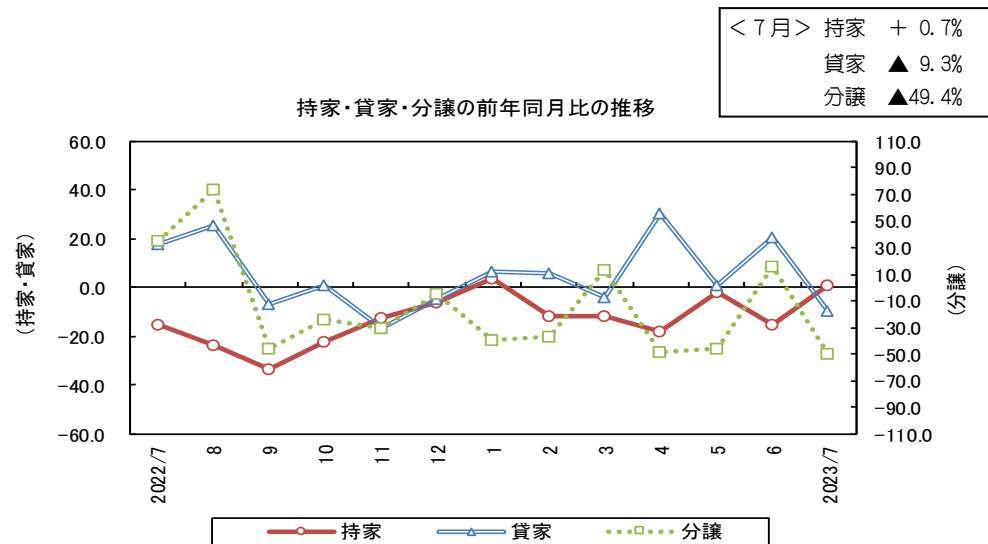
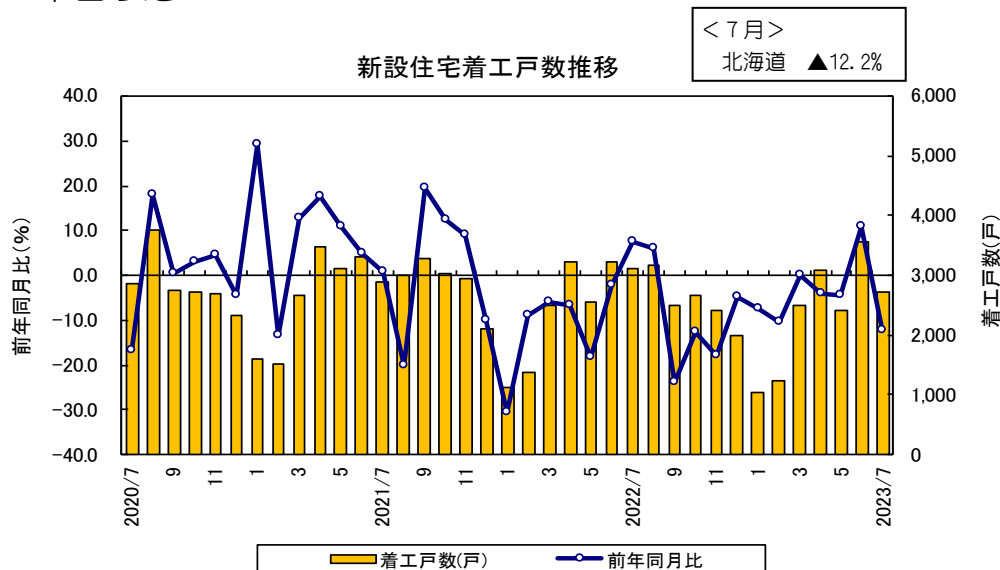
国 ▲17.7% 道 +1.5% 市町村 +10.6% その他 ▲25.5%

（請負金額は国、道、市町村、独立行政法人等の合計額）

（資料：北海道建設業信用保証（株）ほか2社）

住宅建設 ～ 弱い動きとなっている ～

7月の新設住宅着工戸数は、持家は前年を上回ったが、貸家、分譲は前年を下回り、前年同月比▲12.2%と2か月ぶりに前年を下回った。



(資料：国土交通省)

民間設備投資 ～ 増加している ～

2023年度の設備投資計画は、全体で前年度比+1.5%と2年連続で前年度を上回った。

日銀短観の設備投資動向

2023年7月3日発表

	2022年度	2023年度
北海道	+ 11.3%	+ 1.5%
製造業	+ 25.6%	+ 25.2%
非製造業	+ 6.8%	▲ 7.2%
全国	+ 9.2%	+ 11.8%

注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額、研究開発投資額を除く。

注) 北海道は、電気・ガスを除くベース。

(資料：日本銀行札幌支店)

法人企業景気予測調査(北海道・設備投資)

2023年6月13日発表

	2022年度	2023年度
全産業	+ 26.0%	▲ 3.8%
製造業	+ 34.7%	+ 14.9%
非製造業	+ 24.0%	▲ 9.0%

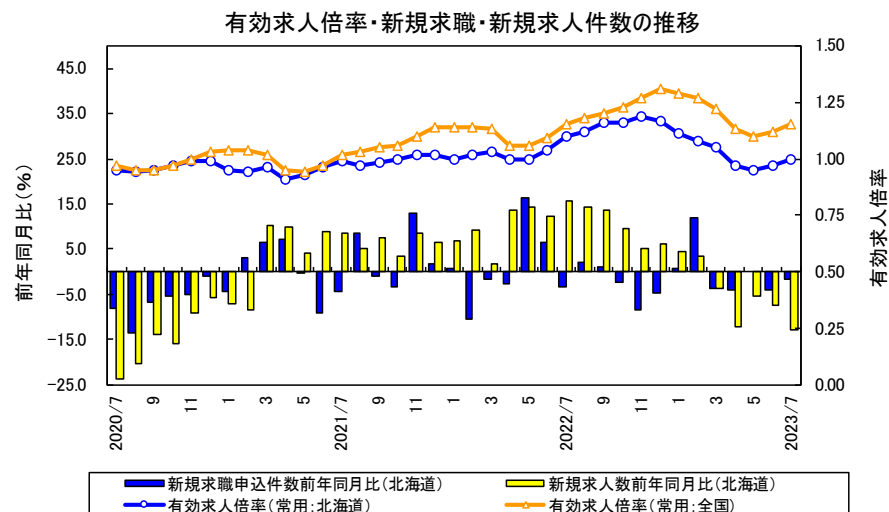
※数値は対前年比増減率。

注) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額を除く。

(資料：北海道財務局)

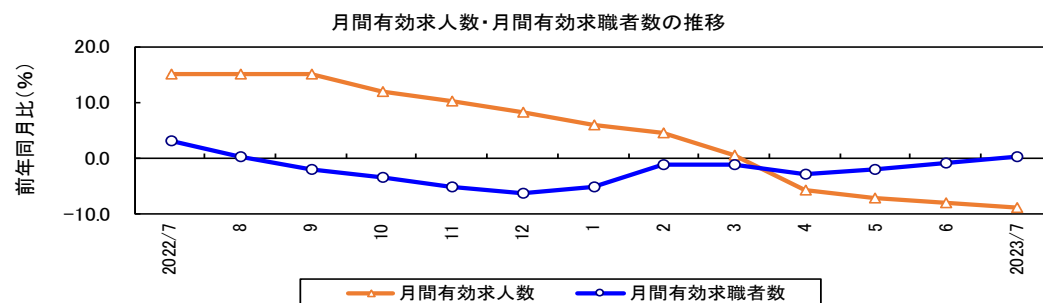
雇用動向 ～ 弱含んでいる ～

7月の有効求人倍率は、1.00倍と前年同月差0.10ポイント低下し、4か月連続で前年を下回った。



< 7月 >			
北海道	有効求人倍率(常用)	1.00倍	
	新規求職人数(前年同月比)	▲13.0%	
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲1.7%	
	有効求人倍率(常用)	1.15倍	
全国	有効求人倍率(常用)	1.00倍	
	新規求職人数(前年同月比)	▲13.0%	
	新規求職申込件数(前年同月比)	▲1.7%	
	有効求人倍率(常用)	1.15倍	

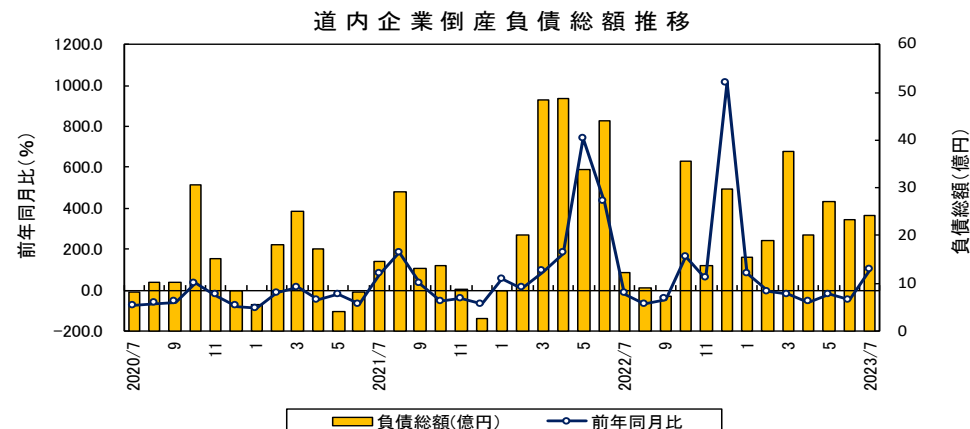
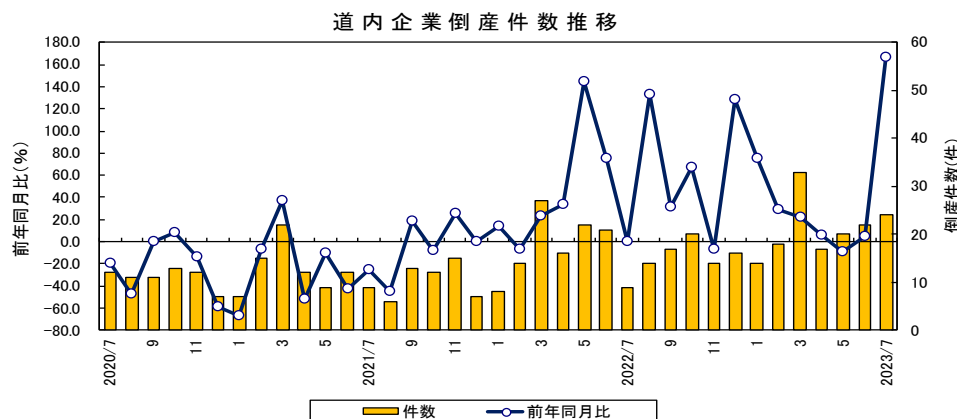
< 7月 >			
月間有効求人	人数(前年同月比)	▲8.8%	
	月間有効求職者数(前年同月比)	+0.2%	



(資料：厚生労働省、北海道労働局)

企業倒産 ～ 件数、負債総額とも増加した ～

7月の倒産件数は24件で、前年同月比+166.7%（15件増）と2か月連続で前年を上回った。また、負債総額は24.3億円で、同+96.7%と6か月ぶりに前年を上回った。



(資料：(株)東京商工リサーチ)